2010年度　生殖・妊娠系Ⅱ　本試験

１枚目　海野先生

１．妊娠高血圧症候群の定義と分類を記せ。

２．妊娠高血圧症候群の病態を記せ。

３．妊娠高血圧症候群が胎児に与える影響を記せ。

２枚目　天野先生

CSTの意義と判定基準を述べなさい。

３枚目　川内先生　（穴埋め問題）

１．黄体機能不全の診断には（　　　　　　）（　　　　　　　）（　　　　　　）があり、治療は（　　　　　　）刺激、（　　　　　　）補充が有効。潜在性高プロラクチン血症の診断は（　　　　　）である。

２．配偶者間人工授精の適応は（　　　　）（　　　　）などの精子異常や、（　　　）検査が不良、（　　　　　）などである。

３．クロミフェン・サイトレートは（　　　　　）作用を有する排卵誘発剤であり、（　　　）、（　　　　）、（　　　　）が適応となる。

４．hMG-hCG療法による排卵誘発剤の副作用は（　　　　　）（　　　　　）である。

５．膣腔鏡は、気腹にして行う。気腹に使うガスは（　　　　　　）であり、その理由は、（　　　　　）、（　　　　　）である。

６．妊娠が成立すると高温相が維持される。それは

（ ）ためである。

４枚目　庄田先生

正常児頭回旋の経過を記せ。（授業中に「出る」と宣言された。）

５枚目　望月先生

０経０産の妊婦158cm 62kg。３８週目にして陣痛発来。経過正常。合併症なし。

児2800g　児頭は坐骨棘に一致。子宮口開大8cm。羊水の流出を認める。胎胞なし。

CGTを以下に記す。（復元できませんでした。おそらく遷延一過性徐脈のCGTではないか。）

とるべき対応を述べよ。

６枚目　角田先生

１．子宮頸癌臨床分類Ⅰ期について述べよ。

２．子宮・卵巣を中心とした血管系について書け。

７枚目　新井先生

正しい方に丸をつけよ。

１．子宮筋腫の好発年齢は（30～40代,50代）

２．子宮筋腫の頻度は（５人、１０人）に１人

３．子宮肉腫で一番多いのは（癌肉腫、平滑筋肉腫、間質腫瘍）

４．子宮体癌の好発年齢 ←過去問通り

５．子宮体癌の症状 ←過去問通り

６．子宮体癌の前癌病変 ←過去問通り

７．子宮体癌の治療 ←過去問通り

８．糖尿病や抗生物質投与で起こりやすいのは（淋菌、カンジダ、膣トリコモナス）

９．婦人科癌でもっとも少ないのは（外陰癌、膣癌）

１０．外陰部に疼痛を伴う多発性の小水疱をともなうのは（ヘルペス、ボーエン病）

８枚目　新部先生

１．（　）を埋めよ。

　a.子宮頸癌の最大のリスクファクターは（　　　　　）である。

　b.子宮頸癌の膣内照射線量の照射点は（　　　）点である。

２．○×をつけよ。

a.子宮頸癌Ⅰ期、Ⅱ期の治療の成績は、手術と放射線では変わらない。　（　　　）

b.子宮頸癌根治的放射線治療は、膣内照射と外照射を併用する。　（　　　）

c.子宮頸癌Ⅲ期の５年生存率は40－60％である。　（　　　）